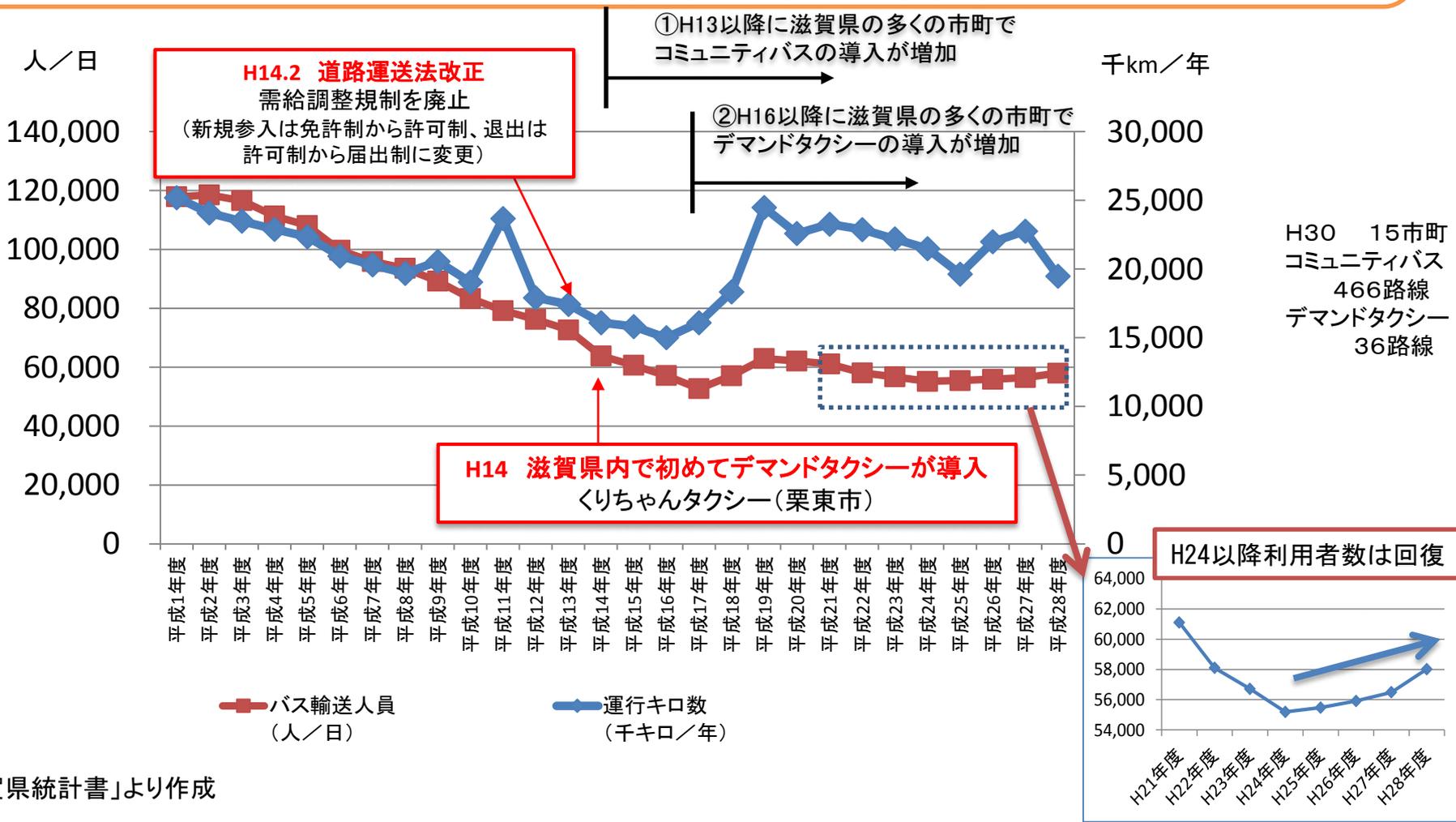


# 滋賀県の地域モビリティの現状と課題

## バスの輸送人員および運行キロ数

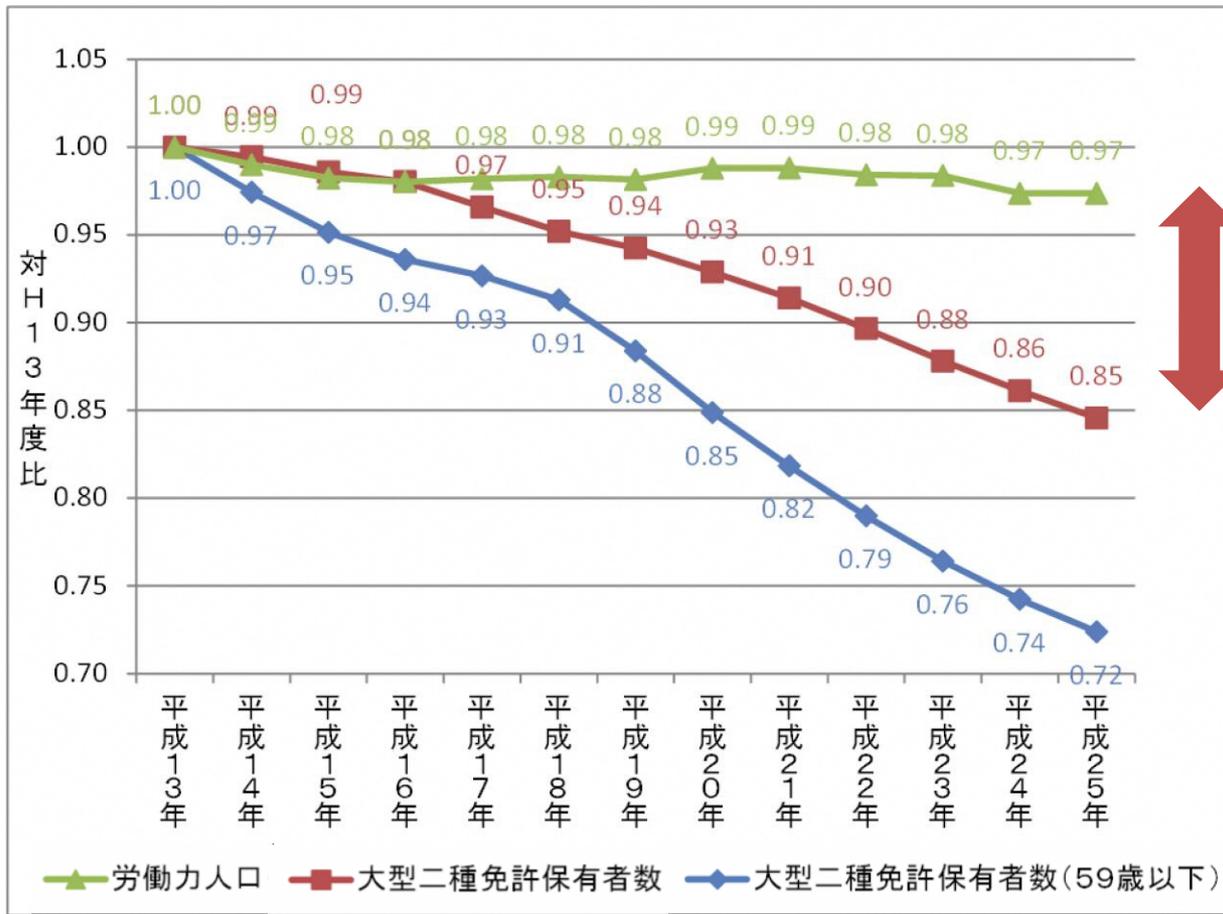
- バスの輸送人員は、1965年代(S40年代)より減少傾向であったが、2006年(H18)以降横ばいで推移。**2012年(H24)以降、緩やかな回復傾向**がみられる。
- 運行キロ数は、輸送人員とともに減少したのち、コミュニティバスやデマンドタクシーの導入等に伴い、サービス供給が維持されている。



# 滋賀県の地域モビリティの現状と課題

## バスの運転手不足

○ 大型二種免許保有者の減少傾向が顕著に加え、高齢化が進み、運転手不足が顕在化



乗合バス事業の年間所得: 440万円 (全産業平均:469万円) **29万円安い**  
年間労働時間: 2,508時間 (全産業平均:2,124時間) **384時間多い**

出典: 国土交通省「自動車運送事業等における労働力確保対策について」より

## 県政世論調査「県政に対する満足度調査」の結果（施策要望）

- 公共交通（主に地域交通）については、年々、施策への要望が高まっている傾向にある。
- 地域別においては、県南部地域での要望が高い。

施策の内容	H20～H22 交通基盤や都市施設の整備			H23～H27 自転車歩行者道や公共交通などの整備							公共交通をつかいや すいまちづくり	
	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	
施策要望 全体順位	7	5	5	3	4	4	4	1	1	3	1	
割合	14.1%	16.1%	16.7%	18.6%	17.3%	16.7%	18.0%	19.5%	19.1%	31.4%	37.6%	
施策要望 地域別順位												
大津	-	-	5	4	4	3	4	2	1	1	1	
湖南	-	-	5	4	4	5	4	1	1	3	1	
甲賀	-	5	5	2	3	4	3	1	2	2	1	
東近江	-	-	-	5	5	3	5	2	1	3	1	
湖東	-	-	-	4	5	2	4	2	3	5	2	
湖北	-	-	-	-	-	8	6	3	3	4	1	
湖西	1	3	4	-	5	8	4	2	2	1	1	

※平成27年度は速報値より集計

\* 全体要望施策の順位

第1位	医療介護	交通	交通	結婚子育て	公共交通						
第2位	子供	子供	労働雇用	災害対策	保育	防犯	防犯	医療介護	医療介護	働きやすい社会	結婚子育て
第3位	福祉	福祉	子供	交通	防犯	障がい者	保育	防犯	防犯	公共交通	働きやすい社会

## 県政世論調査「県政に対する満足度調査」の結果（不満足度）

- 公共交通（主に地域交通）については、平成23年度から5年連続で「不満足度1位」
- 地域別においては、県南部地域での不満足度が高い（不満足度1位）

質問内容	H20～H22 交通基盤や都市施設の整備			H23～H28 自転車歩行者道や公共交通などの整備							公共交通をつかいやすいまちづくり
	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	
不満足度全体順位	2	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1
割合	35.6%	35.7%	33.0%	44.5%	51.8%	47.5%	47.1%	51.2%	50.5%	53.9%	52.3%
不満足度地域別順位											
大津	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1
湖南	2	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1
甲賀	2	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1
東近江	1	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1
湖東	2	4	4	1	1	1	1	2	1	1	1
湖北		2		1	1	1	1	3	1	1	1
湖西	3	3	3	1	1	1	1	2	1	1	1

※平成27年度は速報値より集計

\* 不満足度の全体順位

第1位	労働雇用	労働雇用	労働雇用	交通	交通	交通	交通	交通	交通	交通	交通
第2位	交通	交通	人材育成	公共交通	子育て仕事	災害対策	災害対策	広域交通	災害対策	産業雇用	働きやすい社会
第3位	医療介護	産業育成	産業育成	仕事子育て	災害対策	広域交通	子育て仕事	観光	広域交通	働きやすい社会	道路空間

## 公共交通の課題

- 自動車への依存率が高く、渋滞や環境負荷といった課題がある、今後、免許返納等により運転出来ない高齢者が増加する
- 地域公共交通は、人口減少と少子高齢化による利用者の減少、運転手等の不足が課題となり、事業継続が危機的な状況
- 人口増減の地域格差や移動弱者の増加に対応した地域の交通ネットワークをどのように維持・確保していくかが課題

## 課題対応の方向性

- 地域の生活にとって不可欠な社会インフラである公共交通のあり方を検討する
  - ・ 公共交通のシビルミニマムのあり方
  - ・ 地域にもたらす様々な効果を明確にして、公共交通サービスを維持していくための費用負担・財源確保策
  - ・ 移動手段を組み合わせた効率的な公共交通ネットワークのあり方

# 滋賀県の地域モビリティの現状と課題

予測される将来の課題に対する対応イメージ

持続可能な公共交通に向けて

法改正・・

運行維持の補助制度・・

## 利用促進

みんなで乗ろう！  
みんなで使おう！

### 交通利用者

路線バス

コミュニティバス

デマンドタクシー

福祉有償運送

スクールバス

支え合い交通

病院やスーパーへの送迎

カーシェア

ライドシェア

サイクルシェア

自家用車運転  
(家族の送迎)

自転車・徒歩

**M a s S**  
Mobility as a Service

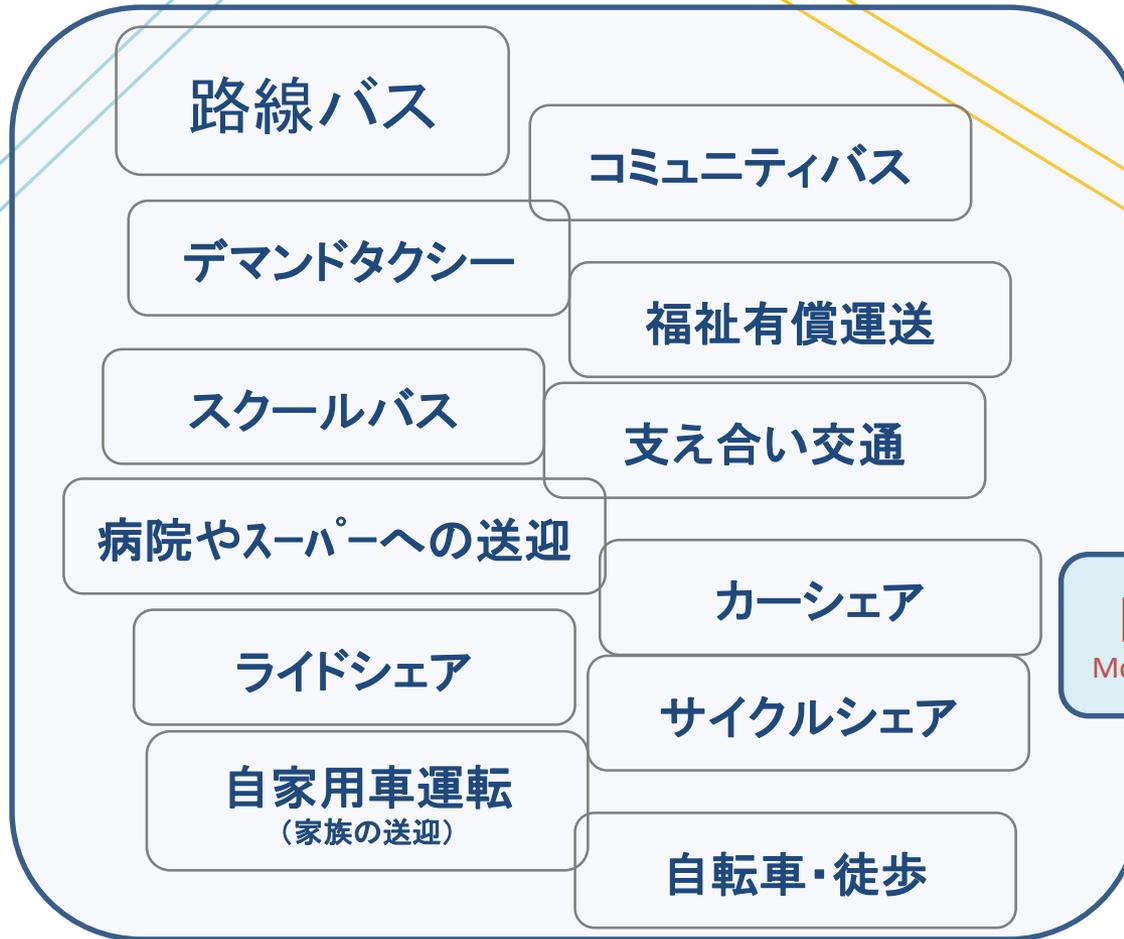
自動運転技術  
の活用

### 交通楽者

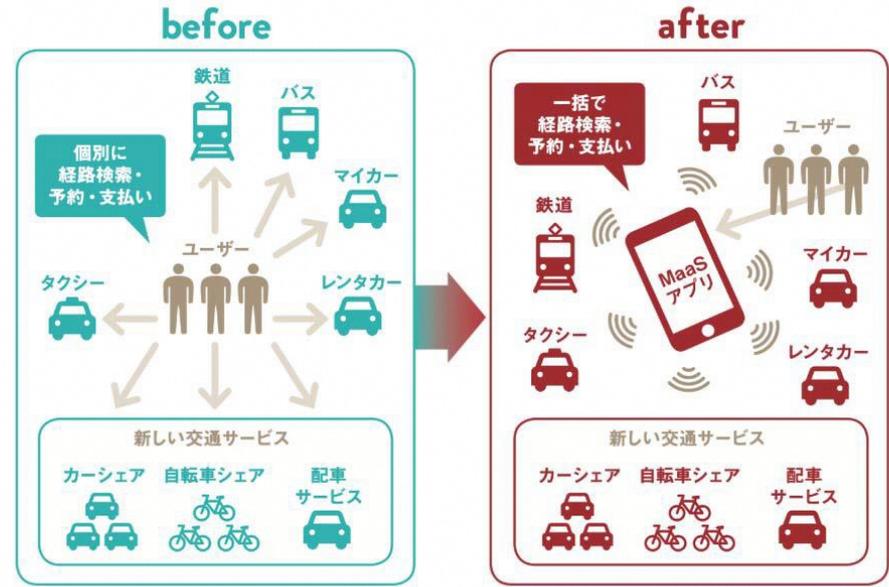
なんの対策もしないと・・・

公共交通の衰退・・・  
持続不可能・・・

~~交通落者~~



MaaS  
=  
Mobility as a Service



一般社団法人JCoMaaS（一般社団法人ジェイコマース）

## MaaSの概念

・「Mobility-as-a-Service(MaaS)」は、「サービスとしてのモビリティ」や「モビリティのサービス化」。従来のように**移動手段を車や自転車の所有という「モノ」で提供するのではなく、「サービス」として提供する概念である。**

・出発地から目的地までの移動ニーズに対して、個人やグループ、世帯などの多様な移動パターンに対応した最適な移動手段を提供するサービスの総称。

・一つの媒体(スマホ)で、移動経路の提供、移動手段の予約、発券、決済までを一括で行うサービスや月額定期や乗り放題等のサービスが実施されている。



## whim. の料金体系

	Whim To Go	Whim Urban	Whim Unlimited
月額	無料	49€ (6,300円程度)	499€ (64,000円程度)
地域の公共交通	利用の度に支払う	<b>エリア内定額乗り放題</b>	
タクシー（半径5km）	利用の度に支払う	利用の度10€ (約1,300円)	無制限
レンタカー	利用の度に支払う	利用の度49€ (約6300円)	無制限
自転車	×	無制限 (30分)	無制限

## 大津湖南地域MaaS社会実験の実施について

近江鉄道(株)と帝産湖南交通(株)の協力の下、  
「**大津湖南地域MaaS (Mobility as a Service) 社会実験**」を実施。

この実験では、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)および龍谷大学瀬田キャンパスに通学する学生40名を対象に、両バス会社が運行する、JR草津駅、JR南草津駅、JR瀬田駅を発着する**全バス路線が2週間乗り放題となる実験用チケット**を発行します。

このチケットがある場合とない場合での実験参加者の日々の交通行動をモニタリングすると共に、乗り放題チケットに対する支払い意思額を問い、

このようなバス料金体系を導入した際の社会的なインパクトを計測します。

これにより、将来的な乗り放題料金体系の導入可能性など、バスの利便性向上策を検討するための基礎的な知見を得ることを目的としています。



公共交通への  
サブスクリプションサービスの導入検討へ



# バス定額乗り放題 検証

立命大と県、2社協力



立命館大と県は、大津、草津両市にあるJR駅を発着するバス3社の路線で、定額のチケット1枚で乗り放題とする社会実験を始めた。学生約40人を対象に、乗り放題ならバスの利用が増えるのか、月額いくらまで必要があるのかを調べる。同大と県は「公共交通の利便性を高める効果を検証したい」としている。

GPS使い  
**利用頻度や利便性**

一定エリア内にある複数 根拠)と帝産湖南交通(草津市)が協力し、JR草津、南草津、瀬田駅発着の全線、龍谷大の学生にスマートフォンを渡し、衛星利用測位システム(GPS)で2週



社会実験の内容を説明する立命館大の大学院生(中央)大津市瀬田大江町・龍谷大瀬田キャンパス⑥路線バスを待つ龍谷大の学生ら(同市瀬田大江町)

間、日帯の通字や移動のデータを収集する。その後、無料チケットを配布し、2週間バス利用の頻度と移動エリアが変化するのか、乗り継ぎが増えるかを調べる。

実験路線には琵琶湖博物館(草津市)やショッピングモール行きも含まれる。学生の普段のバス利用は駅と大学の往復にとまることが多く、県は「利用が増えれば地域活性化につながる」と期待する。

12月11日に大津市の龍谷大瀬田キャンパスで参加者への説明会があり、同大2年南祐花さん(19)は「普段はあまりバスに乗らないが、通学や買い物で使いたい」と話した。定額チケットを購入したいと考える価格帯も学生にアンケートし、3月に結果をまとめる。

近江鉄道は「乗り放題チケットの効果を知りたい」と注目。塩見准教授は「定額でエリア内の全バスが乗り放題になれば利用は増えるはず。実験は将来の導入可能性を探る第一歩だ」と説明する。

(中塩路良平)



大津湖南地域MaaS実験 |  
**エリア内乗り放題チケット**  
**2019.1.20** まで  
ムライフジキ様 男